

KOREA JAPAN

次代の国際交流を
提案したい



オリエンテーション
同志社にご到着



アイスブレイキング
慶熙中の先生と一緒に



授業体験
特別授業と日常授業の体験

COLLABORATION_13



「緊張した！あてられてパニックだった！」 授業はどここの国でも共有できる！

2015年1月25日、ソウルの名門、慶熙中学同志社中学が本校の生徒と授業交流した。姉妹校の協定を結ばさせていただいてから、2回目の同志社での交流となります。本プロジェクトの代表的なプログラムは、日本人生徒による京都案内ツアー、ホームステイ、ホスト役の生徒と一緒に日本授業体験、韓国生徒対象の特別授業と日

未来の授業に国境はない。年齢も立場も専門分野も超えて、アイデアや学びをシェアする授業がやってきた

韓共同の授業体験である。8名の生徒と引率者5名がやってこられた初日は、オリエンテーションにてアイスブレイキングの意味もこめてジェンガをしたが、初めて出会ったとは思えない盛り上がりぶりで、一気に仲良くなったのが印象的だった。その後、目玉プログラムとなるホームステイである。夏はソウルでホームステイさせていただいたが、今回は慶熙中の生徒を迎える番。8組のご家庭の協力を得て、ホームステイを無事成功させることができました。ありがとうございました。

月曜日は、礼拝に参加していただき日本にこられての良かった印象や出来事、これからの同志社中学と慶熙中学のより良き関係を気づいていくことの意味などをお話ししていただきました。その後、校内見学され教科センター方式の施設、メディアスペースなど非常に驚かされていました。

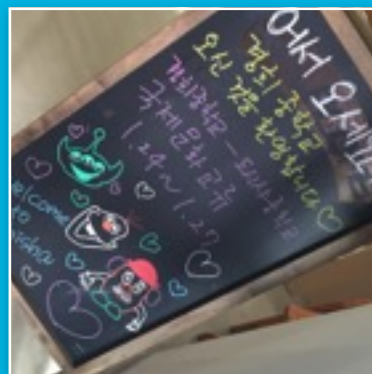
ホスト役の生徒の授業にそのまま参加した慶熙中の生徒達、「緊張した！○○しかわからなかった！！もうパニックだった！」など興奮気味に感想を言い合っていたのが印象的でした。まさに「最大のピンチこそ最高の飛躍のチャンス」とはこのことではないでしょうか。

特別授業では、メダル作りを体験。金属の研磨を通して商品価値を生み出す光沢の技術です。素晴らしい作品を作られていました。

国境を越え課題を共同で

既に現実社会では、アジアの国の会社と上手くコミュニケーションをとりながら協同で商品開発しているものづくりが一般的になっている。「国境を越えて、ともに知識や知恵をシェアし、一緒になってアイデアを出し合い、目の前の課題に対して解決しようと挑戦していけたらいいな」、「そんな原体験をこの授業で体験できたらいいな」…これが、アジアものづくり授業プロジェクトの原点なのである。（沼田）

手作りの おもてなし



ともに学習活動・文化・学術研究を交換し、交流しながらお互いの発展に努力して行きたい



